

# 部活動指導に強力な助っ人

## 部活動指導員第1号の石井さんに辞令交付

市教育委員会は、7月17日、部活動指導員となった石井克也さん（50歳、徳益）に辞令を渡しました。石井さんは大和中学校女子バドミントン部を指導し、競技の技術的な指導や対外試合の引率などを行っています。中学校や高校で、部活動の技術指導や大会への引率などを担う「部活動指導員」。文部科学省が平成29年4月に制度化したもので、競技に関する技術的指導の向上や教職員の負担軽減が目的です。外部指導者が顧問と連携を取って技術指導をしていたのに対し、部活動指導員は顧問がいなくても直接の指導や引率ができるようになります（下図参照）。

一方、部活動指導員は、用具や施設の点検、指導計画の作成、部活動内の生徒指導、事故発生時の現場対応などの責任を負います。市では今年度この制度を初めて導入。来年3月までに3人の部活動指導員を採用する予定です。石井さんはこれまでも外部指導者として大和中学校女子バドミントン部を指導。同校の酒見校長から推

薦を受けて市内で初めての部活動指導員となりました。辞令を受け取った石井さんは「スポーツを通じて、人間性や社会性を育成し、地域の一員として顧問の先生と共に部員たちの成長を支えられれば。また、競技の魅力も伝えていきたい」と意気込みを話しました。

【問】市学校教育課総務係（☎77・8892）



【図】外部指導者と部活動指導員のちがいを示す図



# 漁業関係者など約500人がごみ250 m<sup>3</sup>を回収

## 大雨で有明海に流出したごみを一斉清掃

福岡有明海漁連は7月22日、国や県、市とともに7月上旬に発生した大雨で有明海に流出した流木やごみを一斉に清掃しました。

市をはじめ、大牟田市、みやま市、大川市の同漁連に加入している漁業関係者約500人が参加。83隻の船が沖合や漁港を回って海に浮いたごみを引き上げ、国土交通省九州地方整備局の大型船が回収しました。また、陸では、筑後川や塩塚川、沖端川などから打ち上げられたごみを県や市が清掃。昨年8月の大雨後の回収量にはおおよばなかったものの、250 m<sup>3</sup>ものごみを回収しました。

漁連関係者は「ここ数年は、大雨が続いているのでその対策を立てて、地道な清掃活動を続けていきたい。これから台風の時期を迎えるが、ノリの養殖に影響が

出ないように気を付けたい」と今後について話しました。

【問】市水産振興課水産振興係（☎77・8752）



大雨の影響で有明海に流出した流木やごみを引き上げる漁業関係者

# 義援金で被災地を支援

## 市役所などに豪雨災害義援金箱を設置

7月の豪雨で、被災された人々を支援するため、また、平成24年の九州北部豪雨災害のときに全国から寄せられた復興支援に対する恩返しをするため、市では義援金を受け付けています。寄せられた義援金は、日本赤十字社へ送金します。皆さんの温かいご支援、ご協力をお願いします。

●設置場所 市役所柳川庁舎、大和庁舎、三橋庁舎、市立図書館本館

●設置期限 12月28日（月）

※3庁舎は土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時、市立図書館は月曜日が休館

【問】市福祉課障がい者福祉係（☎77・8514）

# 大牟田市へ災害復旧支援

## 市職員延べ60人を派遣

7月の豪雨で大きな被害を受けた大牟田市へ、市は7月9日から17日まで、職員延べ60人を派遣しました。職員は災害ごみ仮置場や避難所運営などに従事。災害派遣の初日となった7月9日の出発式では、「大牟田の皆さんが、1日も早く元の生活に戻れるように頑張ります」と派遣職員が決意を述べました。



【問】市人事秘書課人事係（☎77・8403）



# 感染が拡大中 新しい生活様式の徹底を

4月20日以降、市内での新型コロナウイルス感染者はゼロが続いていましたが、7月21日に新たに感染者を確認。その後さらに4人が感染し、7月末での感染者は9人になりました。また、県内でも日々感染が広がり、これまで感染者がいなかった近隣市でも感染が確

認されています。このまま感染が拡大すると医療体制や経済活動へさらなる影響が心配されます。引き続き「新しい生活様式」を実践し、感染拡大防止へのご協力をお願いします。【問】市健康づくり課健康係（☎77・8536）

